

第7期 関西系統中医学講座のご案内

謹啓 時下ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。さて、2010年度からスタートいたしました関西系統中医学講座も、お蔭をもちまして7期目を迎えることとなりました。平素からご支援を賜りました会員の先生方には深く感謝申し上げます。

第7期 関西系統中医学講座はこれまでと同様に「基礎理論編」「生薬・処方解説編」「生理・病態・治療編」「弁証・症例分析編」の4編構成、各編隔月毎、各10回で通算2年間の講座です。

第7期も是非、多数の先生方のご出席を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

講 師

仙頭クリニック 院長 仙頭正四郎

→ [講師紹介は2ページをご覧ください]

特 徴

- 系統的な理論の習得を目標とし、「覚える漢方」から「考えて判断できる漢方」への転換を目指す。
- 基礎から臨床応用まで単独講師の統一的視点から解説される連続講座である。
- 方剤選びにとどまらず、方剤の作用を通して東洋医学的な視点で体の状態を探る目を育てる。
- 既存の中医学理論にとどまらず、古方や現代医学の視点を織り込んだ統合的な解釈で、生理観・病態生理を構築しながら東洋医学理論を展開した講義内容である。

- 医学、薬学、鍼灸、整体、アロマテラピーなど東洋医学的医療に关心を持つ医療者、学生から一般の方々まで、初学者から有経験者の知識の整理まで、経験の長短に関わらず幅広い受講者を対象とするカリキュラムである。
- 講座に欠席してもテキスト送付の形式で全国からの参加を可能とする制度がある。
- 長年に亘り蓄積された豊富な質疑応答内容が、毎回のテキストに添付される。
- お困りの症例などを提示いただき、検討できるシステムがある（弁証・症例分析編）。

日 時

◎各編は8月と3月を除く隔月毎の開催で、2年間10回シリーズ。

	9:30~12:30	13:30~16:30
各回	[基] 基礎理論編	[薬] 生薬・処方解説編
各回	[病] 生理・病態・治療編	[弁] 弁証・症例分析編

→ [日程は年間のカリキュラム予定（4~5ページ）でご確認ください]

従来は基礎理論編・生薬処方解説編は偶数月、生理病態治療編・弁証症例分析編は奇数月に固定した開催でしたが、開催間隔が極端に開くのを避けるため、8・3月をまたぐと開催月の偶数、奇数が入れ替わる形式に数期前から変更しております。旧形式に馴染まれておられる方におかれましては、開催月日をご確認のうえ、ご留意ならびにご了承いただきますようお願い申し上げます。

会 場

ホテルビナリオ梅田 2F 太陽の間 → [詳細は8ページをご覧ください]

会 費

各編それぞれ、以下の設定となります。

受講会員	欠席時は各回終了後、テキストを送付します。	(前納) 20,000円
単回参加	会費は当日で結構です。	各回 3,000円

*会費納入後に会員登録をさせていただきますので、前納をよろしくお願いいたします。

→ [会員申し込み、DVD販売等の詳細は6~7ページをご覧ください]

主 催

小太郎漢方製薬株式会社

講師紹介

仙頭正四郎 (せんとうせいしろう)

仙頭クリニック 院長 医学博士

(東京都文京区本郷3-14-16 美工本郷第2ビル6階 TEL・FAX: 03-3836-3350)

日本東洋医学会漢方専門医／日本内科学会認定内科医

1957 (昭和32) 年 高知県生まれ

1982 (昭和57) 年 東京医科歯科大学医学部卒業

1982 ~ 86 年 東京医科歯科大学・大学院 生理学専攻

1985 ~ 87 年 米国ハーバード大学医学部・解剖・細胞生物学教室研究員

1987 ~ 89 年 東京医科歯科大学医学部助手 (公衆衛生学・環境生理学)

この間、臨床の場での漢方薬との出会いから東洋医学に興味を持ち、研究者としての生活の傍ら、東洋医学を取り入れた外来診療を実践。1989 (平成元) 年 東洋医学に専念する決意で大学を辞す。

1990 (平成2) 年 東京・文京区に漢方診療を専門とする仙頭クリニックを開設

時期を前後して豊島病院 (旧)、日本医科大学 (旧)、東京医科歯科大学、順天堂大学の漢方外来を担当する一方、研究会主催、講演、大学の講義担当など診療と教育に尽力。医療にとどまらず、マスコミ出演、一般向け著書、雑誌コラム、市民講座など、東洋医学の知恵を日常に活かす啓蒙活動にも尽力。

2006 (平成18) 年 大阪・福島区にクリニックを移転。

2010 (平成22) 年 一般財団法人高雄病院京都駅前診療所 所長に就任 (仙頭クリニック閉院)

2018 (平成30) 年 東京・文京区本郷に仙頭クリニックを再開 現在に至る。

(組織変更により大学名が東京科学大学に変更になりましたが、当該時期の名称のまま記載しております)

著書・編著 : 標準東洋医学 [金原出版]

家庭でできる漢方2・子どものアトピー [農文協]

家庭でできる漢方3・花粉症 [農文協]

家庭でできる漢方4・不眠症 [農文協]

新型ウイルス感染症の治療と予防の漢方戦略—パンデミックから命を守る— [医学と看護社]

漢方で免疫力をつける—ウイルス対策からウエルエイジングまで [農文協]

究めるエキス漢方大全「ZtoA」 実践から基礎へ [金原出版]

症例でわかる東洋医学 読体術 8つの体質と漢方薬活用 [農文協]

共著 : 21世紀の医療への招待 [誠信書房]

家庭医学事典 [新星出版社]

こころの仕事 [パルコ出版]

現代語訳 啓迪集 (けいてきしゅう) [思文閣出版]

漢方診療二重の秘訣 [金原出版]

家庭でできる漢方1・冷え症 [農文協]

監修 : 最新カラー図解 東洋医学 基本としくみ [西東社]

現代の食卓に生かす「食物性味表」—薬膳ハンドブック (改訂2版) [日本中医食養学会]

「口をぱくぱくする」と超健康になる : 筒井重行著 [マキノ出版]

■ 第7期講座開講にあたって ■

じっくりと腰を据えて東洋医学の基礎や臨床、応用と向き合うことができる講座として21世紀の始まりと共に開始した系統中医学講座 (東京会場は閉会) に続き、2010年に併設開始した関西系統中医学講座も(途中中断を挟み)、早15年が経過しました。

漢方薬を「とりあえず」使ってみることも漢方の世界に足を踏み入れるひとつの道です。そこからさらに、背景にある考え方を学ぶことは、患者、治療者の利益だけでなく、そこで経験される多くの事例や経験を論理的に解釈することの積み重ねが、東洋医学そのものの成長につながると感じています。

自然の力を活用する東洋医学の魅力とともに、様々な患者さんと向き合うことではじめて気づく思考の流れを、講師の経験の中で培った東洋医学の一つの姿として、皆様にご紹介します。

既に経験の豊富な方も、これから学ばれる真っ白な方も、「なぜ効いた、なぜ効かなかった」を、根拠や理論展開を示しながら人に伝える手段を手に入れることで、治療の「実感」を「確信」につなげる一助に本講座がなれば、また、そのことが東洋医学の発展や東西医学の融合を加速させることに役立てればこれに勝る喜びはありません。

■ 第7期講座の方針 ■

以下の4編で構成されます。

【基】は他の編を受講する前提となります。他編と同時進行で進めることも可能です。それ以外の編は、特に順番はなく、目的に応じて選択していただけます。漢方薬は【薬】、疾患単位の取り組みは【病】、東洋医学的な診断や症例の病態把握は【弁】で提供します。

全体の構成や内容は、敢えて、従来のものを踏襲してご提供します。ただし、随時、新たな見解や話題が追加されることもあります。特に生薬・処方解説編では、書籍「究めるエキス漢方大全」の発刊に伴い、記述内容や取りあげる処方に変更があり得ます。弁証・症例分析編の課題症例は、毎期新しいものになります。

【基】基礎理論編

教科書的な中医学理論を土台に、本講座独自の視点から東洋医学理論の特徴を探りながら、その本質に迫ります。自然現象と共通する原理を基礎とする東洋医学理論の視点を生かし、異質の理論として頭ごなしに覚え込むのではなく、現代医学の知識もふまえ、誰にでも納得できる理論として理解する切り口を意識しています。基礎理論を身につけることが、東洋医学に関わる種々の現象を「覚えることから考えることへ」と転換を図る土台となります。何度も立ち返り、学習してください。経験を経てまた見直すことで、初めて見える世界があったり、また違った世界に見えたりするものです。初めて東洋医学を学ぶ方はもとより、従来の学習で納得できない点の多かった方、臨床の経験は豊かでもなぜそうなるのかに疑問を感じる方にお奨めします。

配付するテキストは指定図書のサマリーです。詳細な記述は書籍『標準東洋医学』を各自ご購入いただき読んでいただくことを前提としています。

【薬】生薬・処方解説編

個々の生薬の性質や処方を既存の分類の枠組みにとらわれず、基礎理論編や弁証、病態などで展開される視点を生かした把握の仕方を試みます。

前半は気熱血津液の視点から、後半は臓腑の視点から、該当する生薬や処方について取り上げます。

生薬は主に、寒熱燥潤、散収昇降、帰経の特徴から分析し、個々の生薬の「顔」を印象づけます。

処方は陰陽の視点、作用点の特徴、臓腑との対応、巡りへの介入などの視点から、寒温燥潤分析、層構造の概念図に投影しながら、各方剤の特徴と適応を分析します。書籍『究めるエキス漢方大全「ZtoA」実践から基礎へ』の記述内容も活用しながら、医療用エキス製剤のほか、小太郎匙俱楽部の処方も取り上げます。

【病】生理・病態・治療編

現代医学的にとらえられる種々の臓器や機能別にそれらの生理や疾患が「東洋医学の視点」からどのように映るかを、主に五臓の考え方から分析し、講師の経験を通して提供します。治療を効率よく行いまた、難病に対して新たな治療を挑むためには、生命現象や生理機能に対する理解を深め、正常な状態に対する認識を持つことが大変重要だと考えています。単なる病型分類としての治療経験の蓄積だけでなく、生理的なしくみをふまえた病態生理を考察しながら、治療法に結びつけて考えます。

【弁】弁証・症例分析編

①目の前の患者さんを東洋医学的にどう把握して治療に結びつけるかを学びます。弁証のノウハウを一つひとつの要素として取り出して学びます。②方剤決定のための道具に使われがちな「症候」を、弁証の判断材料として扱えるようにするために、基礎理論編で学んだ視点を活かしながらその発生機序について考えます。③実際の症例を題材に、症例分析や治療の実際を提示して、治療における考え方を紹介します。皆さんのがお困りの症例を提供していただく機会も提供しています。

中医学理論は完成されたものではなく、誤りや不完全さを含んだものであり、まだまだ修正・発展させなければならないものと考えています。

本講座も、確立したものを一方的に提供する場所ではなく、未完成でも、不完全でもよいから、私が現在持てるもの全てを出すという姿勢を持ち、それをご参加の皆さん一人一人が持っているものと合体する場所にしたいと考えています。そのことで、東洋学理論の誤りやまた正当性を認識し、良いところはさらに発展させ、誤りは修正する力になれたら幸いです。

年間カリキュラム予定

◎各編とも原則隔月毎の開催に変更いたしました。2年かけて1コースの終了となります。ご留意ください。

[基] **基礎理論編**：受講1年目の方推奨、他編との重複受講可

9:30~12:30

全くの初学者から、種々の漢方の勉強を統一的視点から整理したい経験者まで、広く対象とします。東洋医学理論の基礎概念を本講座独特の切り口から学びます。

医療に関わらない一般の方でも、東洋医学を深く理解するために役立ちます。他の編を受講するための前提となる知識を提供します。

指定テキストをご用意ください。

日 時			基 础 理 論
第1回	2025年4月27日	第4日曜	東洋医学の5大特徴・感冒が葛根湯でなぜ治る？（東洋医学概観）
第2回	6月22日	第4日曜	生体機能にみる陰陽の側面と意義
第3回	9月28日	第4日曜	気血津液の生成・運行・生理機能
第4回	11月23日	第4日曜	八綱弁証の意義と役立て方・四診の原則
第5回	2026年1月25日	第4日曜	五行学説と五臓から見る生体観・経絡の概念
第6回	4月26日	第4日曜	腎の臓腑概念と生理・病態
第7回	6月28日	第4日曜	脾の臓腑概念と生理・病態
第8回	9月27日	第4日曜	肝の臓腑概念と生理・病態
第9回	11月22日	第4日曜	肺の臓腑概念と生理・病態
第10回	2027年1月24日	第4日曜	心の臓腑概念と生理・病態・（附：三焦・心包について）

開催につきましては、学会等開催の関連で、日程を変更する場合がございます。何卒ご了承ください。

«日程が変更となった場合は、弊社ホームページにてお知らせを掲載いたします。»

[薬] **生薬・処方解説編**：基礎理論編修了の方推奨、他編との重複受講可

13:30~16:30

基礎理論編で学んだ視点を基に、第1部では生薬の性質や作用を、第2部では処方構成や作用を学びます。単なる生薬学や処方の運用手技を学ぶ姿勢ではなく、基礎理論編の切り口から、寒熱燥湿の視点、巡りのしくみに及ぼす影響、層構造や臓腑機能との関連などに重点を置いて、生薬や処方の特徴や意義を理解する姿勢を大事にします。そのことで、パターン認識として漢方薬の適応対象を覚えるのではなく、漢方薬を、道具として、弁証や治則に基づいた使い方を可能にするための、基礎的な生薬や処方の知識を身につけます。

日 時			テマ	取り上げる処方の例
第1回	2025年4月27日	第4日曜	総論	生薬の性質・処方の基本構成
第2回	6月22日	第4日曜	気の生薬と方剤	(香砂・柴芍)六君子湯・補中益氣湯・加味逍遙散・香蘇散・(加味)平胃散ほか
第3回	9月28日	第4日曜	熱の生薬と方剤	真武湯・麻黄附子細辛湯・黃連解毒湯・柴胡清肝湯・葛根黃連芩湯ほか
第4回	11月23日	第4日曜	血の生薬と方剤	温経湯・腸癰湯・疎經活血湯・芎帰調血飲(第一加減)・環元清血飲ほか
第5回	2026年1月25日	第4日曜	津液の生薬と方剤	五苓散・猪苓湯・分消湯・小青竜湯・麦門冬湯・半夏厚朴湯・竜胆瀉肝湯ほか
第6回	4月26日	第4日曜	腎の生薬と方剤	六味丸・八味丸・牛車腎氣丸・大防風湯・五淋散・獨活寄生丸ほか
第7回	6月28日	第4日曜	脾の生薬と方剤	人参湯・人参養榮湯・半夏白朮天麻湯・九味欒榔湯・藿香正氣散ほか
第8回	9月27日	第4日曜	肝の生薬と方剤	大柴胡湯・小柴胡湯・柴苓湯・抑肝散加陳皮半夏・延年半夏湯ほか
第9回	11月22日	第4日曜	肺の生薬と方剤	葛根湯・麻杏甘石湯・神秘湯・柴葛解肌湯・防已黃耆湯・十味敗毒湯ほか
第10回	2027年1月24日	第4日曜	心の生薬と方剤	酸棗仁湯・(加味)帰脾湯・梔子柏皮湯・甘麦大棗湯・桂枝加龍骨牡蛎湯ほか

**取り上げる処方は、追加や変更になる場合があります。

*開催につきましては、学会等開催の関連で、日程を変更する場合がございます。何卒ご了承ください。

«日程が変更となった場合は、弊社ホームページにてお知らせを掲載いたします。»

[病] 生理・病態・治療編：基礎理論編修了の方推奨、他の編との重複受講可

9:30~12:30

基礎理論編で学んだ視点を基に、まず、現代医学的な分類に基づく生理機能を、東洋医学的な眼から把握します。こうした生理観を基に、現代医学の疾患単位の視点から、それらが東洋医学的な病態生理としてどのように解釈されるかを考察し、東洋医学的な疾患のとらえ方やその治療を学びます。

日 時			東洋医学で見る生理機能と病態・治療
第1回	2025年5月25日	第4日曜	東洋医学的病態観（総論）・治療原則・気血津液の病態
第2回	7月27日	第4日曜	小児の特性と疾患／加齢変化と漢方治療
第3回	10月26日	第4日曜	関節・骨・造血・筋肉の生理と病態・治療
第4回	12月14日	第2日曜	皮膚及び付属器の生理と病態・治療
第5回	2026年2月22日	第4日曜	肺（呼吸）・口腔の生理と病態・治療
第6回	5月24日	第4日曜	眼・耳・鼻・アレルギー・膠原病
第7回	7月26日	第4日曜	脳・精神・睡眠の生理と病態・治療
第8回	10月25日	第4日曜	月経・妊娠の生理機序と産婦人科疾患の病態・治療
第9回	12月13日	第2日曜	消化器・代謝内分泌の生理と病態・治療
第10回	2027年2月28日	第4日曜	循環器・腎泌尿器の生理と病態・治療

開催につきましては、学会等開催の関連で、日程を変更する場合がございます。何卒ご了承ください。

«日程が変更となった場合は、弊社ホームページにてお知らせを掲載いたします。»

[弁] 弁証・症例分析編：基礎理論編修了の方推奨、他編との重複受講可

13:30~16:30

基礎理論編で学んだ視点を基に、目の前の患者さんからどう情報を引き出して、どう病態の把握をするか、診断の技術と考え方を学びます。疾患や病名にかかわらず、純粹に東洋医学的な視点から、身体や病態をとらえられる眼を養います。第1部では診断技術としての四診の実際と弁証のコツを習得します。第2部では、症候の成り立ちを考えることで、症候の解決策だけでなく、症候を診断に役立てるための扱い方について学びます。各回、事前に症例を提示して、皆さんの分析結果を掲載する機会や、皆さんから症例を提示していただいて症例検討する機会も設けます。

日 時			四診と弁証の技術	症候の発生機序	症例分析
第1回	2025年5月25日	第4日曜	四診の技術：四診の原則	易疲労／易感冒	症例呈示
第2回	7月27日	第4日曜	四診の技術：望診	発汗異常	症例呈示
第3回	10月26日	第4日曜	四診の技術：舌診	頭痛・肩こり	症例呈示
第4回	12月14日	第2日曜	四診の技術：脈診	皮膚が乾燥する	症例呈示
第5回	2026年2月22日	第4日曜	四診の技術：問診	口渴	症例呈示
第6回	5月24日	第4日曜	色眼鏡をかける	耳鳴り	症例呈示
第7回	7月26日	第4日曜	反証の取り方と矛盾の解決	健忘・不眠	症例分析
第8回	10月25日	第3日曜	背景原因の把握と似顔絵	月経の症候	症例分析
第9回	12月13日	第2日曜	弁証トレーニング	ゲップやガスが多い	症例分析
第10回	2027年2月28日	第4日曜	弁証トレーニング	手足が冷える	症例分析

開催につきましては、学会等開催の関連で、日程を変更する場合がございます。何卒ご了承ください。

«日程が変更となった場合は、弊社ホームページにてお知らせを掲載いたします。»

- ◆カリキュラムは、進行の都合上、内容や割当、順序等が変更になる場合があります。予めご了承ください。
- ◆各編第10回（最終回）の講座は30分程度早めに切り上げて、引き続き同じ会場にて修講式の開催を予定しています。
- ◆各編、会員の先生方に10回のシリーズ終了後、修了証の発行を予定しています。また、各編全10回皆勤出席の先生には皆勤賞をお渡しする予定です。
- ◆各編第1回の講座にてテキスト用のファイルを配布（もしくは送付）いたします。当「ご案内」も一緒にファイルにて保管いただけますようお願いいたします。

お申し込み方法など

◆会員登録、DVD全回購入のお申し込みは、以下の①～④でお願いします。

①別紙「関西系統中医学講座登録申し込み用紙」に氏名、会員登録など、必要事項をご記入ください。

②申し込み用紙を事務局までFAX(072-675-6009)にてお送りください。

※E-maiでのお申し込みは、申し込み用紙の必要事項を入力し、kansaikeitou@kotaro.co.jpへお送りください。

③弊社ホームページから直接お申し込みいただくこともできます。

※<http://www.kotaro.co.jp/>より、「医療関係者向けサイト」→「講演会のご案内」をご覧ください。

④会費・DVDなどの代金を、講座専用払込票にて、下記事務局の口座までお振り込みください。

※関西系統中医学講座専用払込票をご利用いただきますと、払込料金が不要でございます。

郵便振替口座 00980-6-300610 関西系統中医学講座事務局

◇講座専用払込票をご利用の際は、該当欄に○印をお付けください。

*郵便局備付の払込票をご利用の場合は、お手数ですが通信欄に、登録内容・購入内容「◇◇◇◇編○○会員」「◇◇◇◇編DVD全回購入」などを記入ください。

◇申し込み、振り込みは必ず個人名でお願いします。(診療所名等のみでは確認できない場合があります。)

○基礎理論編のみ、事務局への会員登録の申し込みとは別に、各自、指定テキストをお求めいただくと予習や当日の講義により役立ちます。

※指定テキストについては、基礎理論編の指定テキストについてをご覧ください。

※指定テキストのご購入は医学書取り扱いの書店でお求めください(当事務局では販売しておりません)。

○各回(1枚ごと)のDVD購入方法については、右ページをご覧ください。

会員登録について

◆各編、受講会員と単回参加をお選びいただけます。

【受講会員】: 2年間全10回の講座を受講することができます。

会費は前納で20,000円<消費税等10%1,818円込み>です。

●講座各回前に受講証ハガキを郵送しますので、受講当日ご持参ください。

●テキストは当日会場にてお渡しします。

●欠席時には各回終了後にテキストを送付します(事務局へ欠席の事前連絡は必要ありません)。

【単回参加】: 当日会場にて受講料3,000円(各回:消費税等10%272円込み)をお支払ください。

●事前の参加申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

※(例) [薬] 生薬・処方解説編:受講会員/ [病] 生理・病態・治療編:受講会員/ [弁] 弁証・症例分析編:受講会員にご登録の場合、会費は、20,000円+20,000円+20,000円=60,000円となります。

◆講座出欠の事前連絡は必要ありません。受講会員で欠席の場合は、各回講座終了後に事務局よりテキストを送付します。

◆期間途中で会員をキャンセルした場合でも会費の返却はございません。予めご了承ください。

◆期間途中でのご登録の場合も、会費は上記の通りとなります。ご入金後に当年度の配布済み資料(バックナンバー)を送付いたします。

◆住所変更など登録内容変更の際は事務局までご連絡ください。

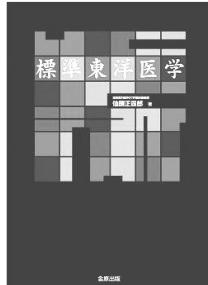
◆やむを得ない事情(天災、交通機関の麻痺、講師の都合など)により講座が開催できなくなった場合は、当該回分のカリキュラムについて、日時を改めて開催するなどの対応をさせていただくことがあります。具体的な対応につきましては、その都度会員の先生方に別途ご連絡いたします。予めご了承ください。

基礎理論編の指定テキストについて

- ◆基礎理論編では下枠の「指定テキスト」をメインテキストとして講義を進めます。基礎理論編の会員にご登録の方は、事務局へのお申し込みとは別に、各自、指定テキストをお求めいただると予習や当日の講義により役立ちます（他の編では指定テキストはありません）。
- 会員の先生方には指定テキストとは別に、事務局から書籍をサマライズしたノートや図（カラー）、会員からのQ&A等のテキストを各回お渡し（もしくは送付）いたします。配付のテキストだけでは、内容理解が十分できないことも予想されます。完全理解のためには「指定テキスト」をご利用ください。
- 当日、貸し出し対応も可能ですが、部数に限りがございますのでご了承ください。

基礎理論編指定テキスト

「標準東洋医学」 仙頭正四郎著 (金原出版)



- ◆2001～2005年度系統中医学講座基礎理論編のために作成したテキストの内容から、処方解説の部分を除き、細部の変更・追加などを加えた書籍です。図は白黒で、テキスト横にレイアウトされます。
- ◆ご購入は各自書店などでお求めください。
当事務局での指定テキスト販売はございません。

生薬・処方解説編ほかの参考図書について

- ◆別講座の内容を編集した『究めるエキス漢方大全 「ZtoA」実践から基礎へ』の内容が、生薬・処方解説編での事前、事後の参照に役立ちますので、ご購入をお薦めいたします。
- 全エキス製剤を取りあげているので、方剤辞典として利用できると共に、本講座の気・熱・血・津液や臓腑から方剤を分類した視点とは異なり、作用や構成の共通点をもつ処方群として解説していますので、本講座と合わせて、違った切り口から処方の理解を深めることができます。
- 各章の冒頭には、症例が挙げられ、その症例分析や治療経過記述の流れで、関連する弁証や基礎理論・生理観・病態観などが取りあげられています。本講座の内容が引用掲載されている部分もありますが、本講座各編の実践例として参照していただくと、各編で得た知識の理解を深めることができます。

DVD販売について

- ◆当講座のDVDは受講会員限定（登録している編のみ）での販売となります。
 - 約180分のDVD各1枚で、1回の講座（ライブ撮影）となります。
 - お届けは各回開催の約1ヶ月後を予定しています（全回購入の場合は計10回の発送となります）。製作の都合で多少前後する事がありますのでご了承ください。
 - 本映像はスライド映像となり、会場全体の映像はございません。画像や照明・音量の調節等、不手際な点についてご容赦をお願いいたします。
 - 音声のみの録音メディアは販売しておりません。

- ◆購入のお申し込みは各回（1枚ごと）または全回一括（全10枚）で受け付けています。

各回の購入（1枚ごと） <単回購入>	<ul style="list-style-type: none"> 各編各回、1枚 5,000円（消費税等 10%454円込み）となります。 各回の講座テキストに同封しています「通信用紙」にてお申し込みください。
全回（10枚）での購入 <全回購入>	<ul style="list-style-type: none"> 各編、全10枚で 45,000円（前納：消費税等 10%4,090円込み）となります。 お申し込み方法は左ページの「お申し込み方法など」をご覧ください。

※本講座では写真撮影、ビデオ録画、録音等につきましては、お断りさせていただいております。

ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



アクセス

会場：ホテルビナリオ梅田 2F 太陽の間

住所：〒531-0072

大阪市北区豊崎 3-9-1

TEL : 06-6373-1111

●阪急大阪梅田駅（茶屋町口）から徒歩 5 分

●JR 大阪駅から徒歩 10 分

●地下鉄御堂筋線中津駅（4番出口）

から徒歩 3 分

関西系統中医学講座事務局

小太郎漢方製薬（株）大阪支店

登録番号：T2120001063899

〒569-0022 大阪府高槻市須賀町 47-3

(TEL) 072-675-6121 (FAX) 072-675-6009

(e-mail) kansaiketou@kotaro.co.jp